

(06~13/Jan.2011)

【旅行日程】

- 1日目 (1月6日) 成田空港発 (11:30) → 飛行機 → デリー空港着 (19:00) 《デリー泊》
- 2日目 (1月7日) 午前: オールドデリー市内観光 (ラージガード、**レッドフォート**、チャンドニー・
チョウク通り)
午後: ニューデリー市内観光 (インド門、**フマユン廟**、**クトゥブ・ミナール**、
インド家庭訪問・紅茶の接待) 《デリー泊》
- 3日目 (1月8日) デリー空港発 (10:25) → 飛行機 → ベナレス空港着 (11:45)
午後: 仏教の聖地・サルナート観光 (ダメーク大塔、ムルガンダ・クティ寺院)
《ベナレス泊》
- 4日目 (1月9日) 午前: 早朝ボートに乗り、夜明けのガンジス河と沐浴風景見物
午後: ベナレス駅 → 列車 → サトナ駅 → 車 → カジュラホ 《カジュラホ泊》
- 5日目 (1月10日) 午前: カジュラホ遺跡観光 (**西群の寺院**、**東群の寺院**)
午後: カジュラホ → 車 → バンダガウル動物保護区 《動物保護区内ホテル泊》
- 6日目 (1月11日) 午前: 早朝、サファリー・ドライブ (ベンガルトラ観察)
午後: バンダガウル動物保護区 → 車 → カタニ駅 → 寝台列車 → アグラ駅 《列車泊》
- 7日目 (1月12日) 午前: 早朝、アグラ駅着後 **タージマハル**、**アグラ城**見学
午後: アグラ駅 → 車 → デリー空港
デリー空港発 (21:10) → 飛行機 → 成田空港着 (13日 8:00) 《機中泊》

【基礎知識】

- 面積 : 328万7263km² (日本の8.8倍)
首都 : デリー (人口: 約1625万人)
人口 : 10.3億人 (男性 5.3億 女性 5億 : 2001年国勢調査)
11.7億人 (2010年、推定)
平均寿命: 男 63.0歳、女 66.9歳 (2004年経済白書)
宗教 : ヒンドゥー教徒: 80.5%、イスラム教: 13.4%、キリスト教: 2.3%
仏教: 0.8% (2001年国勢調査)
政体 : 連邦共和制; 28州・7つの連邦直轄地。元首は大統領、その下に内閣をひきいる首相がいて、議会は上院、下院の二院政。
(第2次世界大戦終了後、1947年独立、1950年インド共和国成立、ジャワハルラル・ネルル初代首相に就任)
経済 : 独立後のインドは社会主義型国家を目指し工業化を推し進めて来たが、1991年経済自由化路線への転換後、年平均6%を超える成長を達し、2003年以降、実質GDP成長率7~8%と高成長を維持。
GDP : 一人当たり1,032\$ (2009年、日本は39,740\$)
為替 : 1ルピー=1.83円 ('10.12.29)
気候 : 暑季(4~6月)、雨季(6~9月)、乾季(10~3月) ベストシーズンは11月~2月
気温 : デリー(1月): 平均気温21℃、最低平均気温5℃
時差 : 日本時間 -3.5Hr (成田空港から直行便で約8時間)
言語 : ヒンディ語(公用語): 39.85%、ベンガル語: 8.22%、テルグ語: 7.80%、マラーティ語: 7.38%、英語(準公用語) 憲法による21の公認言語

【ヒンディ語・基本会話】

こんにちは N a m a s t e (ナマステ)朝も夜もさよならも
ありがとう D h a n y a v a d (ダンニャワード)
いらない N a h i n (ナヒーン) =いいえ
OK、 A c c h a (アッチャー) =はい

教育制度; 州によって異なるらしいが、基本的には10 (小学校5年、中学校3年、高等学校2年)
・2 (上級高等学校2年)・3 (大学3年) 制をとっている。この上に大学院2年がある。

識字率: 65.38% (男 75.85% 女 54.16% 2001年国勢調査)

(※15歳以上で何らかの言語で読み書きが出来る者の割合: 日本 99.8%)

カースト制度:

紀元前1500年頃、中央アジアからインドに侵攻した遊牧民で色白のアーリア人が肌の黒い先住民(ドラヴィダ人)を支配するために自分たちを頂点として作り上げた制度。僧侶、王族・貴族、庶民、奴隷の4階級が有名だが、その下に人間扱いされていない不可触民と呼ばれて人々がいる。

この制度に加え、職業別の階級制度(身分差別)があり、その種類は2000以上もあると言われており、結婚相手も同じ身分から見つけなければならない。

【インド旅行心構え】

- 飲料水； インドの水はマンガンやカリウムなどのミネラル分を多く含む硬水のため腹を壊しやすい。また、水道水も完全に殺菌消毒されていないので、赤痢やコレラにかかる危険性もあり。常に生水を飲まないでミネラルウォーターを買って飲みましょう。
- 病気； 日本人がインドでかかりやすい病気は風邪と下痢。風邪薬、胃薬など医薬品を持参すると良い。病気や事件・事故に備え「海外旅行傷害保険」に加入しておくことをお勧めします。
- トイレ； インドのトイレは紙を使わず、右手で水の入った手桶を持ち、左手を使って水でお尻を洗う。上級ホテルのトイレにはトイレットペーパーはあるが、空港・列車・観光地のトイレにはない。特に女性の方はトイレットペーパーを持っていくことをお勧めします。
- 電圧とプラグ；
ほとんどの地域で電圧は220v、周波数50Hz。国内用電化製品使用の場合、変圧器が必要、またプラグはマルチタイプのプラグを持って行くといい。
- 両替とチップ；
日本からはUSドル持って行き（成田空港ではルピーへの両替不可）、現地の銀行、ホテルでの両替をお勧め。インドはチップの習慣があるので、常に小銭を持つておくこと。
- お酒； インドでは昔から飲酒を罪悪視する風潮が強く酒を飲まない人が多い。大都市の高級ホテルやレストランではオープンに飲むことができる。
- 物乞い； 旅行していると必ず物乞いと出会う。寺院の入口、観光地の駐車場などで観光客に付きまわって来る。どう扱うかは人それぞれだが、毅然とした態度をとることが重要。
- スリや置き引き； 貴重品は肌身離さず持つておくこと。

【インド略史】

- 紀元前 2500 年頃；インダス河流域を中心にインダス文明栄える。
- 紀元前 1500 年頃；アーリア人が北西インドに進出。バラモン教（ヒンドウ教のもと）を伝えた。
- 紀元前 500 年頃；仏教創始者ゴータマ・シッタルタ（釈迦）誕生。仏教、ジャイナ教がおこる。
- 紀元後 4～6 世紀；チャンドラクブタ 1 世がクブタ朝を興し、インド統一。ヒンドウ教が誕生する。
- 紀元後 9 世紀；ガンジス河流域にチャンデラー朝が興る。ヒンドウ教がさかんとする。
- 1206 年；ゴール朝のアイバクがデリーにインド初のイスラム教徒の王朝（奴隷王朝）を興す。
- 1526 年；中央アジア出身の遊牧貴族バーブルが北インドに攻め入ってヒンドウ教徒と戦い、アグラ、デリーを制圧して、イスラム系ムガル帝国を築く
- 1600 年；イギリス、東インド会社を設立
- 1757 年；イギリス軍、フランス軍を破り、インドの植民地支配がはじまる。
- 1858 年；ムガル帝国の滅亡。イギリスによる直接統治が始まる。
- 1914 年；インド、イギリスとともに第 1 次世界大戦に連合軍として参戦。
- 1930 年；ガンディーによる非暴力・不服従運動激化
- 1945 年；第 2 次世界大戦終結。
- 1947 年；ガンジーらの活動によってイギリスより独立。インド、パキスタン分裂独立。
分裂独立の際の国境線の引き方について双方に不満が残り、現在でもテロ頻発。
- 1948 年；ガンジー暗殺される。
- 1950 年；インド憲法施行。インド共和国となる。

【観光先ガイド】

1. 2011年1月6日： 成田空港 ⇒ デリー
[成田空港ターミナル]



[成田空港上空から富士山]



[ヒマラヤ山脈]



出発前の3人

成田空港出発前の元気な姿の三人。はたして元気な姿で帰国出来るでしょうか？

富士山

成田空港を飛び立ってまもなく見えた富士山

ヒマラヤ山脈

デリー到着前、飛行機内から眺めたヒマラヤ山脈(エレベスト山はどの山?)

ヒンドウー教では、ヒマラヤには神々が住んでいるとされており、生命をささえるヒマラヤをインド人の人々は崇拝している

2. 1月7日： デリー

[ラージ・ガード]

1948年、ガンディーが熱狂的なヒンドウ主義者に暗殺された後、荼毘に付された場所。



遺灰はインド各地の河に流されたため、このガートには残っておらず、周囲は公園となっている。中央に黒い大理石の台石が置かれており、台石の横に灯籠が立っていて、その中で永遠の灯が燃え続けている（1948年1月30日死去以来今日までずっと灯されている）

[ラール・キラ（レッド・フォード） [世界遺産]]

タージマハルを築いたムガル帝国5代皇帝シャージャハーンがオールドデリーを造営するための要塞として1638年から建設を始め、9年の歳月をかけて完成した優美な城。



赤砂岩でできているため、ラール（赤い）キラ（城）と呼ばれており、当時は豪華な宮殿が並んでいたが、イギリス統治時代には軍事施設となり、1857年のインド大反乱（セボイの反乱）以降はインド軍が兵舎などの目的で使用

[チャンドニーチョウクの大通り]

レッドフォードの目抜き通り、デリーの浅草・庶民の町。道の両側には店舗を構えた洋服店や生活雑貨店、家具店が立ち並び、リキシャや荷車や自転車が行き交わり、多くの人々が買い物を楽しんでいる。



[インド門]

第1次世界大戦で戦死したインド人兵士約8万人の慰霊碑（高さ42m）として建てられたもの。



壁面には戦没者8万人の名前が刻まれている。門からは大統領官邸へ向けてラージパト通りが真っ直ぐに約3km延びており、ニューデリーが計画的に建設された都市ということが分る。

[フマユーン廟（世界遺産）]

ムガル帝国第2代皇帝フマユーンの霊廟で1565年に第3代皇帝アクバルにより9年の歳月をかけて建造され、ペルシャとインドの建築様式が融合した傑作。



手入れの行き届いた広大な庭園の中央に、ドームを頂く左右対称の建物のスタイルはムガル朝建築の初期の典型的な例で、後に造営される数々の廟や宮殿の範となり、名高いタージ・マハールもこの廟に大きな影響を受けたといわれている

[クトゥブ・ミナール（世界遺産）]

インド最古とされるイスラム遺跡で、インドで初のイスラム王朝（奴隷王朝）を打ち立てたクトゥブディーン・アイバク王が1199年にヒンドウ教徒に勝利した戦勝記念として建てたもので、塔は5層で高さ73mで現存する石造りの塔では最も高い。



ニューデリーより南へ約15kmの郊外にそびえるインド最大のミナレット（塔）で1層目はアラビア文字でコーランが刻まれている。クトゥブ・ミナールのすぐ脇にヒンドウ教寺院を破壊した石材で造られたインドで最初のイスラム・モスクがある。一帯には門や列柱回廊が残っており、その中には見事に石材が組み込まれた美しいドームの天井も見られる。

3. 1月8日：ベナレス

「サルナート」：ベナレスの北東約10 kmにあるサルナートは悟りを開いたお釈迦さま（ブッタ）が初めて説法をしたところで仏教発祥の聖地。

【ダメーク・ストーパー】

ブッタが初説法した場所に6世紀ごろに建てられた高さ43 m、周囲36 mの仏塔



この地で説法を聞いた5人の僧侶が、世界各地に仏教を伝えたと言われていたこの聖地が最も栄えた7世紀ごろには数百の寺院や塔が立ち、1000人以上の僧侶が修行に励んでいたという。しかし、13世紀になってイスラム勢力が侵入すると多くの寺院が破壊されてしまう。現在は発掘された遺跡や出土品は公園として整備されている。

【ムルガンダ・クティ寺院】

1931年にスリランカが建てた寺院で、本堂の壁には日本人画家の野生司香雪氏によるお釈迦さまの生涯を物語る壁画が一面に描かれている。



この寺院には釈迦の遺骨(仏舎利)が祀られている。寺院の中は大理石張りの床が広がっており、正面奥の祭壇には座禅を組む金色の釈迦如来像が祀られている。

4. 1月9日 ベナレス

【ガンジス河（ガンガー）】

毎年、インド全土から100万人以上のヒンドウ教徒が訪れる国内で最も神聖と言われるガンジス河。



夜明け前のガンジス河

ベナレスのガンジス河が最も神聖とされている理由は、この地点がインドで唯一南から北に川が流れている場所で、下から上へ天に昇るイメージがあるからである。この河は天国から流れ出て、人類の世俗的な罪を洗い流すと信じられている。

ヒンドウ教徒なら誰でも死ぬまで一度は訪れたい聖地で、彼らは聖なる河で沐浴をすることで現世の罪を洗い流し、来世の幸せを祈る。



沐浴中の婦人

ヒンドウ-教では、現世の行いで来世の幸せが決まる。そのため、ヒンドウ-教徒なら誰もがガンジス河で沐浴し、現世での罪を洗い流し、身を清めたいと願っている

5. 1月10日 カジュラホ

デリーの南東約350 km、9～13世紀に中央インドを統治したチャンデーラ王国の都として栄えた町。当時は85の寺院があったとされるが、イスラム時代に取り壊され、現在はおおよそ25の寺院が残るのみ。

[カジュラホ遺跡（西群の寺院）世界遺産]

ヒンドウ寺院で11世紀中ごろにシヴァ神を主神として建てられ、寺院全体の形がシヴァ神の聖地であるヒマラヤのカイラーサ山をイメージして造られており、天女像、ミトウナ像（男女交合）や動物の像などの彫刻が872体あり、その数と洗練された美しさ、性描写のおおらかさに圧倒される。



ガンダーリヤ・マハーデーヴァ寺院

カジュラホで最も大きい寺院で後部に向かって徐々に高い塔が連なるデザインが美しい。最も高い塔は30.5mある



ミトウナ像

寺院の外壁を埋め尽くす彫刻の中で、最も印象的なミトウナ像。これは男女の性交合を表現したもののだが、性行為を快楽ではなく、神へ近づく手段(真理)としてとらえている

[カジュラホ遺跡（東群の寺院）世界遺産]

ヒンドウ教とジャイナ教の3つの寺院が残っており、今でも熱心なジャイナ教信者が参拝に訪れる。



6. 1月11日 バンダガウル動物保護区

インド中央部のデカン高原にある自然保護区で、ベンガルトラの観察で有名な国立公園です。トラの生息密度は世界一とも言われています。それでもベンガルトラは絶滅が危ぶまれる希少種であり、広い国立公園内にいるのは50頭を超えるほどなので、なかなかトラにめぐり会うのは難しい。



トラの現れるのを待つ観光客
トラが朝方よく現れると言われて
いる水飲み場で、今出ると待ち望
んで見ている観光客と案内人



別のグループがこのあたりからト
ラが出たのを見たとの情報が入
り、その場所でしばらく待機して
出てくるのを待つわが仲間。
はたしてトラは出たか？

7. 1月12日 アグラ

【タージマハル(インドで最も人気のある世界遺産)】

ムガル帝国、第5代皇帝シャージャハーンが最愛の妃、ムムターズ・マハルのために世界各地から資材や人材を集め、1631年から1日2万人の労働者を使って22年かけて作ったお墓。インドイスラム建築の最高傑作。大理石の壁には花や唐草模様の繊細なレリーフが刻まれており、世界各地から集められた貴石がちりばめられている。



メインゲート

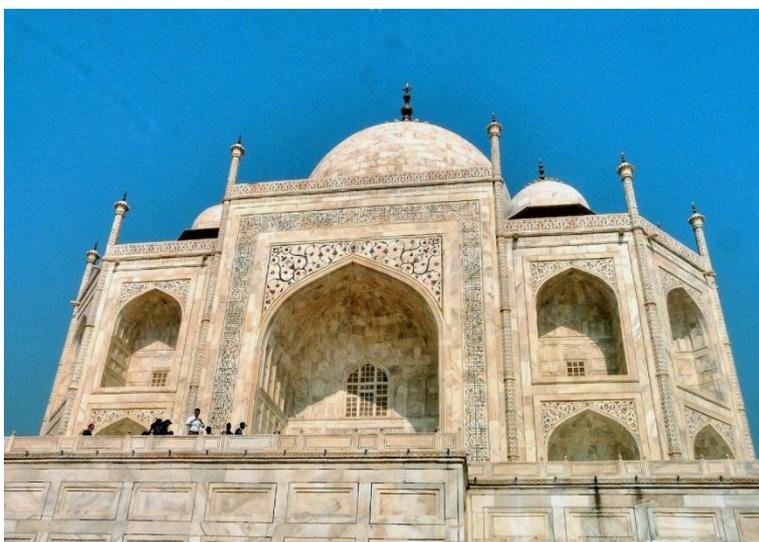
アーチや壁に草花の象嵌細工が見られ、細工には世界中から集めた貴石を使っている



正門から眺めた全景

典雅で優美、華麗そして気品に満ちた高貴な姿が庭園の奥に鎮座している。

敷地は東西300m、南北560mの長方形の16分割した庭園の奥にドームがあり、ドームの高さは58m。



見事な象嵌装飾

象嵌(地の素材を彫って、その部分に他の材料をはめ込んで模様を表す技法)に使われた貴石は中国、チベット、スリランカ、エジプト、ペルシャ、アフガニスタンから取りよせられたとのこと

【アグラ城（世界遺産）】

16世紀から19世紀にかけてインドを支配した、ムガル帝国の栄光と巨大な権力の象徴とも言える城塞。ムガル帝国でただ一人「大帝」と呼ばれた第3代皇帝アクバルが1565年から10年かけて築いた赤砂岩の城。以来、第5代シャー・ジャハーンまで3代にわたり居城として使われた。

高さ20mを誇る赤砂岩の城壁に囲まれ、赤い壁は2,5kmに渡って続いている内に宮殿、モスク、居住区などあり。



アマール・シン・ゲート

赤砂岩の門と背後にそびえる城壁は堅固な要塞の印象を与え、帝国の強大な力を誇示している



ジャハンギール宮殿

アクアバル帝が息子のために建てた宮殿



カース・マハール

大理石で出来た建物は皇帝の寝室、両側は子供達の寝室